



春日井ロータリークラブ

2013~2014 年度 WEEKLY REPORT

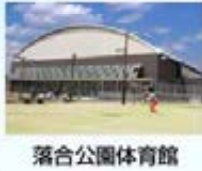
クラブテーマ

ロータリアンとして世界・地域に奉仕しよう

市民がウォーキングや散歩の折りに、それぞれの故郷を思い出し、自然や緑を大切に作る心の糧となるよう、全国ロータリークラブの協力により、各地の県木・市木60余本を植樹しました。
(春日井ロータリークラブ創立25周年記念事業 1994年4月)

会 長：屋嘉比良夫
副 会 長：大橋 完一
副 会 長：太田 弘道
幹 事：加藤久仁明
会報委員長：近藤 太門

例 会 日：金曜日 12:30~13:30
例 会 場：ホテルプラザ勝川
事 務 局：春日井市烏居松町3-43
T E L：(0568)81-8498
F A X：(0568)82-0265
E - Mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp



ロータリーの森の樹

本日のプログラム

- | | |
|--------------|-----------|
| ・点 鐘 | 司 会 伊藤 純君 |
| ・国 歌 | 屋嘉比良夫君 |
| ・ROTARY SONG | 「君が代」 |
| ・ビジター紹介 | 「奉仕の理想」 |
| ・食事・歓談 | 屋嘉比良夫君 |
| ・委員会報告 | |
| ・会長挨拶 | 屋嘉比良夫君 |
| ・卓 話 | 川本 正之氏 |
| ・幹事報告 | 加藤久仁明君 |
| ・点 鐘 | 屋嘉比良夫君 |

2014年6月6日(金)第2187回(6月第1例会)

ニコボックス報告 委員長 成瀬 浩康君
○祝福の皆さんおめでとうございます。家内の誕生祝をありがとう。 屋嘉比良夫君
○45年間皆さんのおかげでロータリーを続ける事ができました。ありがとうございました。 磯野 俊雄君
○磯野俊雄さん 45周年おめでとう。 宅間 秀順君
○卓話をやらせていただきます。 亀谷 鉦一君
○家内の誕生祝を受けて。 小島 啓治君
○祝福の皆さんおめでとう。 近藤 太門君
○ロータリーの森、草刈も終わり美しくなりました。 早川 八郎君
○世界のバラとガーデニングショーにて信子妃殿下をご案内できた喜びで。 北 健司君
○祝福おめでとうございます。卓話を聞く喜びで。 足立 治夫君 青山 博徳君 伊藤 一裕君
梅田 英夫君 太田 弘道君 岡嶋 良樹君
加藤久仁明君 加藤 茂君 風岡 保広君
河村 哲也君 志水ひろみ君 清水 勲君
芝田 貴之君 社本 太郎君 朽本 正樹君
中島 宗幸君 林 憲正君 速水 敬志君
蓮野 美廣君 場々大刀雄君 古屋 義夫君
山田 治君 山田 倫章君 和田 了司君
○ご協力ありがとうございます。 成瀬 浩康君

先週の記録

幹事報告 幹事 加藤久仁明君
◎例会変更の案内

名古屋丸の内 RC	6月26月(木) 6月26日(木) 18:30 夜間例会の為 安江
尾 張 旭 RC	6月20月(金) 6月21日(土) 18:00 夜間例会の為 未定
小 牧 RC	6月25月(水) 6月25日(水) 夜間例会の為 未定
名古屋名北 RC	6月25月(水) 6月25日(水) 夜間例会の為 アパホテル

出席報告 委員長 伊藤 一裕君

会員 58名	欠席 22名	出席率 75.6%
先々週の修正出席	欠席 2名	出席率 96.4%

卓話 亀谷 鉦一君
「朝日川柳」という時事川柳を載せる読者投稿欄があります。3月22日の投稿句に、「一人ずつ一人ずつ逝く 昭和かな」というのが載っておりました。昭和は、世界恐慌に始まり、第二次世界大戦、そして敗戦。
「昭和一けた世代」は、三つの特徴があると述べております。一つは、英語が不得意であること、

ロータリー親睦活動月間

例 会	6月13日(金)	6月20日(金)	6月27日(金)	7月4日(金)
予 定	祝福 卓話 峠 テル子 卓話 松尾隆徳君	IDM 18時~ ホテルプラザ勝川	休会定款6-1	理事役員会 11:30 クラブ協議会 13:30 全員協議会

ホームページ：<http://www.kasugai-rc.jp>

E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

二つは、食べ物に対していまだに飢餓感を抱いていること、三つは、社交ダンスに対して偏見を持っていること、というものです。(自動車弁と開けると、まず、蓋についた飯粒を食べるという話、英語は読めて、書いても、喋れないという話、モンペやゲートルのイメージがダンスを忌避するのではないか、などのたとえ話をする)。その前の「前・昭和一ケタ世代」で括られる人たちとは、男女を問わず、否応なく戦争に関わらなければならなかった、いわば受難、悲惨の世代と言えます。私の脳裏にもこの世代に属する何人かの先輩の顔が甦ります。彼らは、一様に、壮健で、知力に優れていたように思えてなりません。これら人材の喪失は、一部領土の喪失にも等しいと指摘する人もいます。

あるテレビ番組の中で、靖国に祀られている彼ら(昭和一ケタ世代)のことに話が及んだ時、「一度も女性の肌に触れることもなく、童貞のまま…」と、涙を流し絶句したシーンを、今、思い出しました。なお、「愛妻、納税、墓参り」が、彼の信条でした。

私の在所は、かつての土岐津町(現土岐市)で、生家は窯業原料の扱いを家業としておりました。同胞は、5人(二人の兄、一人の姉そして妹が一人、ただ、姉と長兄は物故)でした。自分を語る事の難しさは承知しておりますが、性格は穏やかであり、円満と、至極勝手に考えております。無論、過ぎてきた人生も、それなりに誠実を旨を通してきたつもりであります。しかし、そうは言いましても、人生、82年も経てきたうちには、他人には語れない、恥ずかしい経験は、数えきれないほどあります。わけても、幼少期には、他人には語れないようなことをしてかしたことも、一切ではありません。(幼稚園をわずか半日でやめたこと、母親の厄介なDNAをついだために麻疹をこじらせたりしたことなど、三橋敏夫の俳句、「あやまちは 繰返します 秋の暮」

私には、半世紀近く付き合っている友人がおります。同世代の男です。お互い釣り好きとあって、この地方の、それらしき釣り場(伊勢湾はもとより、太平洋岸のあちこち、ときには越前海岸の全域)へ、よく出かけました。魚釣りに関わるエピソードは、数えきれないほどあります。

自身、あまり触れたくはない話題ですが、私のありのままの一面を知っていただくために、敢えて、その一つを申し上げることにします…。「七里御浜」へ、この友人と黒対釣りに出掛けた時の話です。名古屋を出たのは、たしか午前7時ごろ、「七里御浜」については、午後4時を過ぎていました。これほどの時間を要した理由は、現在、廃道に近い状態と聞いている「矢ノ川峠」超えにありました。「七曲り峠」などと言われた大変な難

所でした。文字通りに一車線で、がけっぷちで対向車とすれ違う時などは恐怖でした。「夕まず目」と云うのは、海釣りにとっては絶好の釣り時とされており、ここで、先の友人が言うところの、「奇矯な行動」を、私がとってしまったのです。雄大な風景の下では、人の距離感は狂うものだと聞きます。この時の経験はまさにそれでした。集落までは、歩き出して分かったことですが、かなりの距離がありました。一日中夏の太陽に熱せられ熱くなった、小石混じり砂浜を、重い荷物を持って歩くのは、かなり難儀なことでした。でも、さすが漁業の町です。氷はなんとか確保できました。しかし、獲物を腐らせないために確保したはずの氷は、無用となり、持余し、挙句、太平洋へ捨てました。大きな波に沖へ運ばれていく流水ならぬ、防腐用の氷魂が、「七里御浜」の沖へ流れていく図は、自らの「奇矯な行動」を象徴しているようで、滑稽でもありました。

私、学業を終えると、一時期、他人様の企業に籍を置いたこともあり、のちに、現在の事業につながる企業を興すなどしてまいりました。現役を退いて、ほぼ10年になります。幸い、身内が事業を継いでくれることになり、実態はさておき、形の上では、悠々自適の身となりました。幸い、体の一番上のほうの部分に、多少の変調はあるものの、そのほかの部分には、今のところ健在です。社会貢献などと、恰好のいいことは云いません、生ある限り、これからは、何らかの形で世のためになろうと、心構えだけは持ち続けたいと思っております。

旅の話をしていただきます。残された人生の希望のひとつは、外でもなく、時間に縛られない旅に出ることです。雑誌記事に触発されたわけではありませんが、私も、ここ数年の間に、世界一周の船旅をはじめ、オセアニアへの船旅などへ、家内を伴い何度も出かけました。口幅ったいことを申し上げるようで恐縮ですが、船旅と言うものは、本来の旅とは似ても似つかないものだということを、これらの旅で改めて知りました。ご承知の通り、旅、印欧語で **Trabel** とは、**Trable**、と同根の言葉で、「難儀」とか、「困難」を意味します。ホテル同様の部屋に居つき、洋上を、只管移動する体の船旅は、この意味での旅とは到底、言えないものです。船旅のいいところは、色々あります。荷物を持っての移動がないこと、厄介な通関手続きがないこと、何を食べるか、どこで食べるかなどの心配がないこと、などです。何度もこうした船旅を経験しながら、こんな矛盾したことを申し上げるのは、恐縮ですが、私の偽りのない感想としてお聞きいただければ幸いです。

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅

人也。船の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老いをむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす…」

唐突に「奥の細道」を引用したことには理由があります。と申しますのは、私、時間に余裕の持てる境地と言いますか、余暇として過ごすことのできる時間ができたら、芭蕉のたどった奥州路を、可能な限りの同じ道を辿ってみたいという、予てからの願いを持ち続けてきました。足腰が現状を保っているうちに、その旅を、ぜひ実現したいと思つてのことです。芭蕉が奥州路を旅したのは、320 数年前（1689 年、元禄 2 年）のことです。旅の条件、事情など、現代のそれとはまったく異なりなることは、多くの「奥の細道」研究書などから窺うことができます。

現代に生活している者にとっては、その難儀や困難は想像することすらできないものだったようです。「トラブル」続きの「トラベル」だったことは、「奥の細道」に、発句として残されています。また、同行した曾良（芭蕉の門下）の日記にも残されています。

蚤虱 馬の尿する 枕もと（尿前の関を過ぎて）
大雨に降りこめられ、三日も足止めにあった時の句である。

五月雨を あつめて早やし 最上川（大石田）
これも大石田の宿で川止めにあった時の句である。

日本海に沿う海岸の難所を抜け、たどり着いた市振では、こんな句を詠んでおります。

一家に 遊女もねたり 萩と月（一振）

ご存じの通り「不易流行」です。NHK で放送された、俳人、長谷川 権の解説によれば、「宇宙はたえず変化（流行）しながら、実是不変（不易）である」というようなことでした。このテーマは、芭蕉の踏み後（「奥の細道」）を、ただ辿ってみたいとする閑人の、よくするところではありません。

ありがとうございました。

卓話

太田 弘道君

本日は、会員誕生の祝福をしていただきありがとうございます。

私は、69 歳になりました。春日井 RC に入会させていただいて今日で 11 回目の祝福となります。今まで 2 回祝福の卓話を依頼いただきましたが、RC の年度末が近いこともあり中止となり、今日初めて卓話をさせていただきます。

私が初めて祝福していただいた 11 年前の状況をお話します。

会員誕生は 6 名でしたが今は私 1 人となり、結婚記念日も 6 名みえましたが、今は 0 名です。

夫人誕生は 7 名みえましたが今は、屋嘉比良夫君、林憲正君、小島啓治君の 3 名となっています。

又、アテンダンス表彰は 5 名でしたが、磯野俊雄

君、伊藤純君の 2 名となってしまいました。当時 22 名の祝福でしたが、16 名が退会され 6 名となりました。

11 年という歳月は、長いとつくづく感じます。

本日アテンダンス表彰されました磯野俊雄会員は 45 年の表彰です。私には気が遠くなる様な歲月ですが、すばらしい事だと尊敬いたします。

50 年を目指し、これからも頑張ってください。

私も春日井 RC で長くさせて頂いている事があります。それはソングリーダーです。

或る日、小島啓治君から君がソングリーダーに選ばれたと連絡をいただきました。1 年間と思ひ快くお引受けしましたが、それ以来変わることなく 8 年目になりました。他の RC では、一人でこれだけ長くやっている所は無いと思います。新しい会員も多数入会された今！是非どなたか手を上げていただき、6 月 20 日の IDM が私の最後の務めとなります様お願い申し上げ、私の卓話とさせていただきます。

本日、祝福ありがとうございます。



会員誕生日 成瀬 浩康君 太田 弘道君



アテンダンス表彰 磯野 俊雄君



卓話 太田 弘道君



卓話 亀谷 鉦一君

学校にお越しになったときに、私が一緒に写真を撮っていた男性（森田君）が、わたしのあしながおじさんだと思ってしまったからです。でも、間違えていました。これが、わたしがちょっとだけがっかりしている理由です。

こうした落胆にもかかわらず、教育の面であなたが本当にたくさん支援していただいて喜んでいきます。早く個人的にお会いできることを強く願っています。できるならお会いしたいです。あなたは神様のような親切な真心、どこまでも寛大です。もう一度、本当にありがとうございますと言わせてください。あなたの親切に元気づけられて、私は一生懸命勉強に集中し、これからも勉強を続けていきます。私は学校で、とても素晴らしい成果をだしています。よい成績を維持し、3年生全体なかで、名誉ある4位という順位を獲得しました。何が正しいかということに従って、全てのことをしっかりやっています。

本当に、本当に感謝しています。奨学金に感謝しています。全てのことに感謝しています。ママ、わたしの心からのあなた個人への感謝が広がっていきます。

お元気で、本当に個人的にお会いしたいです。志水ひろみ様のすべてに感謝！

あしなが奨学生からの手紙
フローレス シャロン レース

志水ひろみ君

あしなが'おかあさん' 親愛なる志水ひろみ様
お元気ですか？ すべてが素晴らしからんことを願っています。

最初に、そして一番重要なのですが、感謝のお手紙を書くのが遅くなって本当にごめんなさい。志水ひろみママ、本当にありがとうございます。わたしがどんなにあなたを尊敬し、感謝しているかお分かりにならないほどだと思えます。奨学金をたくさん支援していただいてありがとうございます。

個人的に感謝の言葉をお伝えするチャンスがあればもっと嬉しいのに、そしてそうなればとってきつくハグ(抱きしめ)すると思えますが、(そのチャンスはないですね)。おかあさん、私はお母さんを混乱させる意図はないのですが、正直言わせて、わたしは少しがっかりしています。なぜなら、先日日本人の(ロータリーの)方々が、私の

